

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201039		
法人名	(株)アイケア		
事業所名	グループホームあいの街袖師		
所在地	静岡県清水区袖師町141-1		
自己評価作成日	令和2年7月16日	評価結果市町村受理日	令和2年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&UjyosyoCd=2294201039-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和2年7月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

長くいる利用者様は以前に比べ自分で出来ることが減り意欲がなくなっている。それに比べ新しい利用者様はほぼ自分のことは自分で出来たりできない利用者様を手伝ってくださる。職員は危険がないよう見守りをしている。職員は残存機能を活かしていただけるよう個別に対応しています。またご家族に希望で少しでも長くここを使っていたらいいように、他職種とも今後のケアについて話し合いその人らしく生活できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ケアの統一」に力強い助っ人となるアイバットが法人の方針で導入されています。「書き物が減った」「瞬時に情報共有できる」とメリットは大きく、普段から利用者とのふれあい、関わりを旨とする職員にとっては時間の有効活用が実ったことが何よりも財産となっています。コロナで恒例のいちご狩りができなくなり、イチゴ棚を模して「なんちゃっていちご狩り」が開催できたのもその成果といえます。意志疎通が難しい利用者に向けて顔面をさぐるように口の形を変え、「声のでるのだから、しゃべることもできるのでは？」と果敢にチャレンジする傍らでは、昭和4年生まれの名が和室に川の字となって昼寝をしていて、利用者の安寧が伝わります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「元気で明るく笑顔で過ごす」というオープン当時の理念があり利用者様はもちろんスタッフも笑顔で過ごすという考えで取り組んでいます	理念は目に入る場所に貼りだしています。正社員とパートタイマー職の業務量の割合は半々(頭数はパートが多い)ですが、職員でグループラインを敷き報連相を密にして理念の実現につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	保育園児や中学生が1年に1~2回来てくれます。中学2年生の職場体験も引き受け毎年4人が3日間学習しています。また中学の体育祭では席を用意していただき観覧しました	目前にある中学の職場体験、幼稚園との交流は休止中です。運動会の招待も年々厚遇となり、 TENTと椅子の用意のほか、案内状まで届くようになっていたのにコロナは本当に無念です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括主催の会議に出席し認知症がもたらす様々な出来事等を多職種の方々話し合い理解や支援の方法を導き出すようにしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回会議を行っています。利用状況や行事の報告サービス内容等の報告をするとともに民生委員やご家族の意見を集約しサービスの向上に取り組んでいます	コロナ対応から運営推進会議は書面でのやりとりとなり、メンバーに会えないのは大変寂しいものの、民生委員は地域の商店主であることが幸い、「大変だね」「頑張ろうね」とのエール交換があります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が毎月来て利用者様の声を聴いてくださいます	「コロナ禍での運営推進会議をどうしたらいいのか？」迷った末、市役所窓口で電話で問い合わせ「書面のやりとりによる議事録作成をもって代替してよい」との回答を得て、継続させています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3か月に1回行い毎月の会議で報告し迅速に対応している。入口の施錠はほとんどないが、利用者様の状態により朝と夕方施錠するときもある。また、スピーチロックに関しては新人職員にも研修を行っています	身体拘束廃止未実施減算については委員会、研修会、新入社員研修と、滞りなく実施しています。利用者本位のケアを目指し、利用者のストレス軽減についてはこれまでも留意してきたことですが、コロナ禍でより配慮に努めています。	指針の構成をはじめ、あらためて書面の見直しをおこない、より適切なものとするを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について意識を高め、入浴時に体の観察を行いまた本人の行動・言動に注意を払い早期発見できるように職員一同情報を共有しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設研修でも取り上げられるので毎年権利擁護については学んでいます。後見人を付けたほうがいいのではないかなどと職員や管理者ケアマネなどとも話あっています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に施設見学をしていただきケアに対する方針や重度化について説明を行っています。今年に限りコロナの関係で見学はご遠慮願っていますが、写真で紹介するなど少しでも不安が取り除けるようにしています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族にお手紙を送り日々の様子をお伝えしています。特に今は面会が難しいため詳しく家族にお伝えしています。別室での面会は1:1で行っています	家族との交流を含んだ行事はできなくなっていますが、便りとその余白に近況を記すことは続けています。家族との面会はマスクや除菌、時間制限(10分程度)などの安全対策を以て多目的室でおこなっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングは時間短縮し研修は個々に資料を基に自宅学習を行っています	ミーティングや研修の機会はありませんが、そういった相互理解の場があってもなくてもお互いに注意しあえる自立した職員が大半で、癖やマイナス面を受け止めつつチームワークをもって業務にあたっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課で職員個々の目標管理し達成できるように環境設備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部外部研修を通じて学んだ内容をミーティングで職員に伝えたり資料配布し個々に学んでいます		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じエリアの管理者や施設長と意見交換や勉強会を行っています。一緒に行える行事等も把握し職員・利用者様の行き来もありません		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人・ご家族にコミュニケーションを図りサービスの説明をさせていただいております。また困っていることや不安なことなどを聞きながら利用者様が安心してその人らしく生活できるように心がけております		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅介護生活での大変さや問題点を家族とともに確認し情報をたくさん共有し共に考え信頼関係の構築に心掛けています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	CMを中心に状況によってはアセスメントをし何が必要なのか見極め今後の支援について職員全体で検討しています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯たたみや干す・食事前のテーブル拭きなど生活の中で出来ることは一緒に行い本人の役割を感じていただけるように努めています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が参加できるイベントを開催し、家族との交流が出来るようにしています。面会が自由にできない今は別室1:1で短時間なら面会できるようにして、本人を支えていく関係づくりに努めています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親せき友達近所等なじみの関係が途切れないようにしている。面会時に必要ならば間に入り本人との関係を聞きコミュニケーション取れるように支援しています	パッチワークや編み物は年々できなくなっていますが、それでも「四角編んでみて」「できるじゃん」と職員が励まし、家族が毛糸を届けています。また本人が起きているなら仕事帰りの面会も受け入れています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、必要時に職員が間に入りコミュニケーション取れるように支援している。また、他者とトラブルにならないよう職員同士注意し誘導の順番を考えたり席替えを行ったりしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族様と連絡を取り、暮らしの経過を確認しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で何気ない会話や表情・行動等で利用者様の想いをくみ取り叶えられるよう検討し支援につなげている。発語が少ない方も筆談やボードなど使い少しでも本人の思いが伝わるよう努めています	「食べる楽しみ」を利用者のリクエストで実現させており、テレビやチラシから「食べたい」が沸き上がることもあります。麺類や揚げたての天ぷらのほか、テイクアウトでのすきみ丼やまぐろ丼も幾度となく提供しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを活用し理解に努めています。また、本人や家族との会話からも情報を得るようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションをとりながら安心して生活が出来るよう支援しています。また、健康状態には日々注意を払い職員全体で共有し体調管理に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・関係者(リーダー・居室担当者)を交えて希望・要望・意向を伺い意見やアイデアを交換しそれを基に作成しています。	「安心して過ごせる」「重度化しても此処にいたら大丈夫」ということを軸とした介護計画書となるよう図っています。居室担当者が利用者1名につき2人おり、ケースカンファレンスでは中心となって気づきをあげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の経過記録・排泄入浴食事BTチェックを記録しています。気づいた点があれば連絡ノートに記入し情報交換に生かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望やご家族の意向を確認し柔軟な支援やサービスが行えるように対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れや、地元中学生の職場体験・保育園児の慰問など、地域の人とのつながりを大切に豊かな暮らしにつながるよう支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診医の受診を支援しています。家族・本人の希望により外に受診に行かれる方もいます。利用者の経過を主治医に伝え適切な医療を受けられるよう支援しています	7名が月2回訪問診療をおこなう協力医に変更していますが、在宅時からの医師を継続している人もいて、事業所としては家族・本人の意向を尊重しています。医療情報はアイパットで共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員と看護師の連携に努め看護師より適切な指示を受け健康管理に努めている。些細な変化も見逃さないよう日々の情報を職員と看護師が共有している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	体調不良などで緊急入院となった場合も職員が医療機関へ出向き直接対応し家族の不安も和らげるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在対象者はいないが、家族とは話し合いを行いなるべくここで看取ってほしいと言われている。主治医や家族と話し合い確認を取っていきご家族の意向に添えるよう努めていきます	訪問看護事業所とも連携がある24時間オンコールの協力医の存在が心強く、看取りはスムーズで、此処2年間で2名をお見送りしています。口径摂取できなくなっても本人が「入院先から戻りたい」といえば、医療関係者も快く支援くださり、安心な体制にあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は勉強会などで知識を付け応急処置は消防に依頼し実践を行いながら学習している。職員間でも緊急連絡もがあり近隣に住む職員が対応しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1F2Fの合同レクで大声で助けを求めたり二階に避難する等行っています。新しい職員もいるため119番通報のやり方など行いました。	発声練習も兼ねた呼びかけ訓練や、水害想定で下から上にあがる訓練を利用者と和気あいあいとおこなうのが定番で、「あ～楽しかった」との声が利用者から零れています。	食事が自慢の事業所ですので、「缶詰等ストックされた食糧で美味しい献立をつくろう～」といった災害食イベントも一考ください。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳の想いを忘れず人生の先輩として礼儀や言葉使いを気を付けるよう心掛けています	「わたし、〇〇ちゃんと呼ばれていたから」と、呼び方をリクエストされない限り、「～さん」としており、「当たり前のこととにならないように」というのは管理者から常に示唆しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の状態や理解力に応じ選択肢の増減をもって対応しています。尊厳・傾聴に心掛け押しつけない介護にならないよう努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に楽しく暮らしていけるよう配慮を心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を使いカットだけでなく本人希望で顔そりなども行っている。その日の服も気分に合わせて一緒に選んでいます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門職員が勤務し季節の野菜や果物を提供しています。レクでなんちゃっていちご狩りやスイカ割りまたお好み焼きパーティー・おでん祭りなど行いました	完成品(湯煎)として納入される日と職員が手作りする日とがあり、手作りのときも食材は業者から届きます。ムース提供が1名いますが、皆とテーブルを囲み、「どう？」と声かけのある食事介助をおこなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量など毎回チェックし必要な栄養・水分の確保が出来るように支援しています。食事形態もその方に合わせムース食を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科にて口腔内チェック・治療を行っています。また、自分では困難な方にはこちらで支援しうまくいけるよう声掛けしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを理解し声掛けや介助見守りを行っています。自力排便が困難な方もトイレに座ることで排便出来たりします	排泄チェック表をつけ、職員の声かけによる自立を促していますが、「バットしているからいいじゃん」と抵抗されたり、排便がうまくできない、上手にふけない、汚れたものを隠すといった症状への対応に苦慮しています。	拒否や難儀な事例については、対策について話し合う時間を増やす等、職員負担を減らす取組みを期待します。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂る・よく噛んで食べるなどの声掛けや便秘解消の体操をしている。それでも困難な時は看護師に対応してもらっています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	大方入浴曜日は決めてあるが体調や気分に応じ支援している。お湯は毎回一人一人変え入浴剤も選べる人は選んでいただいている。シャワー浴だけの方は同時に足浴も行っています	週2回を清潔の目安としていますが、曜日や時間帯に希望があれば応えています。入浴剤は3種類 準備して選ぶ楽しみもあるほか、職員との会話も弾んでいます。またむくみもとれる足浴も活躍しています。	足浴にも浴剤を入れ、楽しみがさらに膨らむとよいと思います。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人に合わせて日中でも休息が取れるように支援している。和室を使い毎日同じ方が3人休息をとっている。日中はベランダで日光を浴びています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々にファイルを作成し職員がいつでも確認できるようにしている。また薬の必要性や副作用なども理解し誤薬や飲み忘れなどないよう支援しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物畳みや食事前のテーブル拭き食事後のお盆片付けなど出る方が出来ない方を手伝ったりしています。また1階花壇を担当される方もいて職員と球根を植えたり水やりを行っています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者様の体調また職員の配置に合わせて散歩や外出に行っていますまたベランダに出て近隣園児の散歩に声掛けしたり中学の校庭を眺めたりしています	コロナにより外出は思うようにいかないものの、散歩での気分転換と畑での夏野菜の収穫、草取りは継続できています。ベランダから幼稚園の子どもに手をふる日もあり、また階下の小規模多機能事業所へ遊びに行くことも、息抜きに一役かっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今お金を持っている方はおりません。外出した際欲しいものを自分で選んで購入することはありません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家に電話を掛けたい」など希望される利用者様には都度対応しています。また1か月に1回家族あてにお手紙を出し1か月の様子をお伝えしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事等の写真や利用者様作成の展示などが季節に合わせて展示してあります。ホールのソファは冬温かくとても人気があります	酸性水の噴霧等、これまでも衛生には留意してきましたが、コロナ禍となり、1日1回の夜間における清掃は日中を追加して2回となっています。また、トイレと洗面台にも除菌スプレーを置いて、清潔を担保しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は自由に好きな場所で好きなことをできる空間づくりをしている。工作が得意な方やぬりえなどを行う方その都度席を変えたりしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況に合わせ居室をご用意させていただきます。昔本人が作ったものを居室に飾っている方、家族との集合写真を飾っている方もいらっしゃいます	危険なものでない限り、持ち込みに制限はせず、「使い慣れたものを自由に～」と伝えており、その人らしい居室がある一方で、症状によっては物を減らしている居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の動線に邪魔になるようなものは置かない工夫をしています。できる限りできることは自身でやって頂けるよう支援しています		